



道徳通信 NO. 5

平成27年9月14日発行
道徳教育推進委員会

LHRでの道徳授業の実施 (その1)

2学期に入り、年間計画に基づき、第1学年は、道徳の授業をLHRで行います。

9月は、9月10日、17日の2週連続での実施予定となっています。9月10日実施の内容について報告いたします。

今回は、読み物教材、映像教材と各クラスで工夫をした授業展開でした。

授業内容は以下のとおりです。

M1 (電子機械科)

「ヒーローから学ぶ」(「明日への扉Ⅱ」)



中学校での教員経験のある担任の授業であり、取り組む教材の提示、明確な指示、落ち着いた授業展開が印象的でした。

体育の先生ということで、スポーツへの強い情熱も感じられました。

E1 (電気科)

「ヒーローから学ぶ」(「明日への扉Ⅱ」)



M1と同じ教材での実施でした。

担任の先生と人柄が反映され、アットホームな雰囲気での授業が展開されていました。

ヒーローは特別な存在ではなく、自分たちと同様に地道な努力を重ねた人々であることを生徒自身が感じ取っていました。

I1 (情報技術科)

「守りたいもの」(「映像教材(H25)」)



主人公の高校生の心の動きに注意させるとともに、自分たちの身近にある故郷の自然や文化をいかにして守り継承していくかという題材でした。

生徒たちが熱心に取り組んでいる姿が印象的でした。

P1 (建設科)

「霞が関ビル」(「プロジェクトX」)



建設科として普段の学習と直結する題材を取り上げ、授業を展開していました。

視聴覚教材は、視聴中にいかに集中させ、与えられた課題に取り組めるかがポイントになります。

うとうとしてしまったり、内容を茶化したりする者が出ない工夫をする必要があります。

落ち着いた環境の中でじっくりと考えさせ、生徒の気付きを引き出す工夫を積み重ねていくことだと思います。

小・中学校での道徳の教科化の流れから 見えてくるもの

小・中学校の学習指導要領の改正に伴う変化は、いずれは高等学校での指導にも波及すると考えられます。

今次の一部改正で、目標や配慮事項に加えられた下記の事項は、今後の道徳教育の中でのキーワードとなるはずですので、心にとどめておいていただきたいと思います。

- ・物事を多面的・多角的に考える
- ・主体的に学習に取り組む
- ・問題解決的な学習、体験的な学習等を適切に取り入れる
- ・社会的な課題を自分との関係において考える

→道徳にも「能動的な学習」が求められる！

※いわゆるアクティブ・ラーニングの手法です。

(文責 崎山)